

★学校教育目標 ○学び考えを深める子 ○思いやりの心をもち行動できる子 ○がんばりぬく子 ○身体をきたえる子				★重点計画の概要 教育のまち「日野」の理念である第2次学校教育基本構想を土台とし、人間尊重の精神を基調に、心身ともに健康で、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応する生きる力を育む教育を推進する。そのため、「生きる喜びにあふれ」「ともに知恵を出し合い」「地域をステージとした」教育を推進し、児童の学びに向かう21世紀型能力を養う。			
★目指す学校像（ビジョン） 【めざす児童・生徒像】 思いやりの心をもち、心身ともに健康で、進んで学ぶ意欲とたくましく生きる力を育む児童 【めざす学校像】 挨拶と歌声と笑顔があふれ、子供たちの成長を児童・教職員・保護者・地域のみんなで喜び合える学校 【めざす教師像】 すべては子供たちの明るい笑顔と未来のため、自ら学び続け、子供とともに成長する教師							

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
いのち	思いやりの心をもち、自他のいのちを大切に する豊かな人間性の育成	互いを認め合い、他者を思いやる心 を育てるとともに、それらを実践する力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育活動全体を通して、自他の生命を尊重するいのちに関する特別授業を全学年で実施する。 ◆学校いじめ防止基本方針によるいじめ防止の取組を推進する。 ◆「特別の教科道徳」において、考え、議論する道徳教育の実践を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ◆学校行事・委員会・係活動・たてわり班活動などを通して、集団への帰属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育成する。 	3	4 100%の教員が計画通りに実施している。 3 90%以上の教員が計画通りに実施している。 2 80%以上の教員が計画通りに実施している。 1 計画通りに実施した教員が80%未満である。	3	4 児童アンケートで95%以上の児童が肯定的な評価をしている。 3 児童アンケートで90%以上の児童が肯定的な評価をしている。 2 児童アンケートで80%以上の児童が肯定的な評価をしている。 1 児童アンケートで肯定的な評価をしている児童が80%未満である。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供はもちろんだが、大人も学ぶ機会が少ない。大人も巻き込んだ形で共に学んだり、講演会等、実施できれば良い。 ・子供を変えることで大人も変えていこうとするところもある。広く地域で学んでいけると良い。 ・道徳の授業はよく準備され、工夫されていると感じる。 	児童アンケート「学校は楽しいところですよ」「友達と仲良く遊ぶことができている」の肯定的評価はそれぞれ91%、96%であった。いじめはどの学級でも起こり得るとの共通認識のもと、学校全体で早期発見・早期対応に取り組む。保護者・地域と共に「いのちの学び」の開発・充実を図る。
	心身ともに健康でたくましく生きる力を育む	体力向上および食育推進の取組を通して、児童がたくましく生きるための知恵や体力を育てるとともに防災意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆体力テスト、体力向上ハンドブック、ソイコ等への取組を通して、身体を動かす楽しさ心地よさを味わわせ、基礎体力の向上を図る。 ◆オリンピック・パラリンピック教育を通して、本物のアスリートと触れ合う体験等により、スポーツ志向を高める。 ◆栄養士と連携した食育を推進し、心身の調和のとれた発達を促す体づくりを推進する。 ◆「命のノート」を活用し、生命の大切さを自己評価する機会を設定するとともに、防災安全教育を通して「自分の命は自分で守る」意識を高める。 	3	4 100%の教員が計画通りに実施している。 3 90%以上の教員が計画通りに実施している。 2 80%以上の教員が計画通りに実施している。 1 計画通りに実施した教員が80%未満である。	2	4 児童アンケートで95%以上の児童が肯定的な評価をしている。 3 児童アンケートで90%以上の児童が肯定的な評価をしている。 2 児童アンケートで80%以上の児童が肯定的な評価をしている。 1 児童アンケートで肯定的な評価をしている児童が80%未満である。	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果から、先生方や子供たちが頑張っており取り組んでいることが分かる。 ・大学生でも手首のスナップを効かせる動きができなかったり、投げる力を生活の中で高めることは難しい状況である。 ・季節のメニュー等もあり、給食から学べるよう工夫されている。 	児童アンケート「学校の給食は残さず食べています」「体育の時間や休み時間は元気に遊んだり運動したりしています」の肯定的評価はそれぞれ90%、85%であった。引き続き運動量の向上に取り組む。体力テストは全体的には好成績であったが、投げる力や瞬発力は引き続き課題であり、解決に取り組む。
学び	基礎基本の定着による確かな学力の育成	基礎力となる知識・技能の確実な習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ◆「学びの礎」・「六小学習ルール」に基づき全教員が統一して学習規律徹底を図る。 ◆ベシックタイムにおいて、学習の基礎・基本の定着を図るとともに、学び残しゼロに向けた金曜道場を実施する。 ◆2年生以上算数における少人数を生かした習熟度学習を定着させる。 ◆授業にユニバーサルデザインの視点を取り入れ、聞く時間を減らし考える時間増やすことによる学習の構造化を図る。 ◆教員がICTを効果的に活用した授業、児童がICTを効果的に活用する授業をそれぞれの学級で週に1回以上行う。 	3	4 100%の教員が計画通りに実施している。 3 90%以上の教員が計画通りに実施している。 2 80%以上の教員が計画通りに実施している。 1 計画通りに実施した教員が80%未満である。	4	4 児童アンケートで95%以上の児童が肯定的な評価をしている。 3 児童アンケートで90%以上の児童が肯定的な評価をしている。 2 児童アンケートで80%以上の児童が肯定的な評価をしている。 1 児童アンケートで肯定的な評価をしている児童が80%未満である。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは全体的に落ち着いた学んでいる。グループでの話し合いも活発に行われていて、自分の意見を伝える力も育っている。 ・先生方の板書がきれいに整っている。工夫された板書で、子供たちの理解の助けになっている。 ・ベシックタイムや金曜道場等、学力定着の取組が心強い。 	児童アンケート「学校の勉強を理解しています」の肯定的評価は95%であり、目標を達成している。学校評議員会の意見にもあるように、教員はICT活用等、指導方法を工夫しており、全体的に児童は落ち着いた学習に取り組んでいる。今後も学習につまずきが見られる児童には、個別に支援を分析して対応していく。
	主体的・対話的に学び、考え、発信する授業の創造	問題解決的な循環型の学びを取り入れた授業を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成し、それらを活用・発展させる実践力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆プログラミング教育を推進して、思考力・表現力を高め、確かな学びに結び付ける。 ◆タブレット/パソコン活用して主体的・対話的な授業を実施する。 ◆地域教材・地域人材を活用した循環型の学習活動を進める。 ◆日本の伝統文化を学び合う体験活動を充実させる。 	2	4 100%の教員が計画通りに実施している。 3 90%以上の教員が計画通りに実施している。 2 80%以上の教員が計画通りに実施している。 1 計画通りに実施した教員が80%未満である。	3	4 児童アンケートで95%以上の児童が肯定的な評価をしている。 3 児童アンケートで90%以上の児童が肯定的な評価をしている。 2 児童アンケートで80%以上の児童が肯定的な評価をしている。 1 児童アンケートで肯定的な評価をしている児童が80%未満である。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育とはどのようなねらいで行われ、具体的にどのような取組なのか、保護者にも周知していく必要がある。 ・対話的な学びを積極的に取り入れていると感じた。 ・昔遊びなど、日本の伝統的な学びを大切にしていることが良い。地域人材の活用をさらに進めてほしい。 	児童アンケート「体験をしたりパソコンを使ったりする勉強は分かりやすいです」の肯定的評価は93%であった。タブレットPCについては、まだ活用方法についてのスキルが低く、今後も課題である。次年度は、プログラミング教育研究協力校としてアンパラグドの研究を進めるとともに、PCを活用した研究を進める。
地域	学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」の推進	PTA・地域支援本部・自治会・地域人材などを活用し豊かな体験活動や学校環境整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ◆教職員がPTA活動や地域行事、育成会等に積極的に参加する。 ◆学校支援ボランティア等を活用し、豊かな体験活動や学校環境整備を行う。 ◆学校HPを毎週3回以上更新するとともに、学校・学年・学級便り等、積極的な情報公開・広報を継続する。 	2	4 100%の教員が計画通りに実施している。 3 90%以上の教員が計画通りに実施している。 2 80%以上の教員が計画通りに実施している。 1 計画通りに実施した教員が80%未満である。	2	4 教職員アンケートで80%以上の教職員がA評価をしている。 3 教職員アンケートで70%以上の教職員がA評価をしている。 2 教職員アンケートで60%以上の教職員がA評価をしている。 1 教職員アンケートでA評価をしている教職員が60%未満である。	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン室で、子供たち一人一人が別々の課題に取り組んでる状況を見て、先生一人で指導するのは難しいと感じた。保護者のボランティアを呼びかける等、大人の目や手を増やす必要があるのでは。ミシンや校外学習等いろいろあると思う。 ・学校HPによる情報公開・広報は頻繁に行われている。 	教職員アンケート「PTA活動や地域行事、育成会等に積極的に参加している」「学校HPを毎週3回以上更新するとともに、学校・学年・学級便り等、積極的な情報公開・広報を継続している」のA評価はともに69%であった。子供たちを社会全体で育てるため、保護者・地域との連携のさらなる拡大・強化を図る。
	家庭教育力の向上による生活習慣の確立	基本的な生活習慣の徹底と児童一人一人の防災意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ◆「のびゆく六小 学びの礎」「六小学習ルール」を活用し、「挨拶の励行」「まきりの遵守」の指導を徹底する。 ◆家庭学習のススメの啓発を行う。 ◆サポートプランを活用して児童個別の課題を把握し、校内委員会・特別支援コーディネーター・スクールカウンセラー等と連携して組織的に対応する。 	3	4 100%の教員が計画通りに実施している。 3 90%以上の教員が計画通りに実施している。 2 80%以上の教員が計画通りに実施している。 1 計画通りに実施した教員が80%未満である。	2	4 児童アンケートで95%以上の児童が肯定的な評価をしている。 3 児童アンケートで90%以上の児童が肯定的な評価をしている。 2 児童アンケートで80%以上の児童が肯定的な評価をしている。 1 児童アンケートで肯定的な評価をしている児童が80%未満である。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶はよくできている。足を止めて挨拶する姿に感心する。 ・学びの礎、六小学習ルールは重要。教員が変わっても継続していけると良い。 ・宿題は「ひのっち」でやっていることもある。 ・SNSに関する教育をなるべく早い時期から行えると良い。 	児童アンケート「そろえることを意識して、ロッカーや机の中・靴箱の整理整頓をしています」「あいさつを進んでしています」の肯定的評価はそれぞれ85%、89%であった。挨拶や靴をそろえる指導等は、緩めればすぐにできなくなるため継続が重要である。今後も全職員で共通理解をもって指導に取り組む。
特別支援教育	ユニバーサルデザインを意識した環境整備・授業改善	特別支援コーディネータを活用し、ひのスタンダードの具現化を図るとともに授業のUD化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ひのスタンダードを基に月一回環境整備を行う。 ◆授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰もがわかりやすい授業を創造する。 ◆毎月の校内委員会で各学年の特別支援コーディネータを活用して、支援を要する児童についての共通理解と組織的な対応を行う。 	2	4 100%の教員が計画通りに実施している。 3 90%以上の教員が計画通りに実施している。 2 80%以上の教員が計画通りに実施している。 1 計画通りに実施した教員が80%未満である。	3	4 教職員アンケートで90%以上の教職員がA評価をしている。 3 教職員アンケートで80%以上の教職員がA評価をしている。 2 教職員アンケートで70%以上の教職員がA評価をしている。 1 教職員アンケートでA評価をしている教職員が70%未満である。	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての子供たちが学びやすい環境づくりを行うことを継続していることは素晴らしい。 ・授業のユニバーサルデザイン化とは、どのようなことを言うのか、周知が必要ではないか。 ・校内委員会で特別な支援が必要な子供たちについての対応を検討し共通理解していることは大事。 	教職員アンケート「授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰もがわかりやすい授業を創造している」「毎月の校内委員会で各学年の特別支援コーディネータを活用して、支援を要する児童についての共通理解と組織的な対応を行っている」のA評価はそれぞれ81%、96%であった。授業のUD化を推進する。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。